

飯塚構成員配付資料

2014年3月26日

次世代医療 ICT の基本的方向性に関わるコメント

東京大学名誉教授
飯塚悦功

第1回次世代医療 ICT タスクフォース配付資料を拝見いたしました。効率的な議論に資するため、ここに私の意見メモを提出いたします。

1. 賛同

医療が社会技術であることを強く意識し、2006年に東京大学工学部に医療社会システム工学寄付講座を設置し運営してきた身として、次世代医療 ICT の将来像及び施策案の俯瞰図（3階建てイメージ図）に記された、ねらい、意義、実現構想に対し、全体として強く賛同します。

2. システム思考

次世代医療 ICT が有すべき重要な側面として、「横串」「俯瞰」「システム思考」などが挙げられると思います。このことを意識した、必要な（社会）機能、社会制度、組織構造及び運営、必要な組織能力の構想、設計、実装、運営を期待します。

3. 専門的能力

前項との関連において、次世代医療 ICT の推進において必要となる「専門的能力」に係る考察が必要と感じます。私の専門は広義のシステム工学（一般目的達成学。妥当な目的の設定、目標・課題の構造理解、因果関係解析、目的達成手段考察、実施・進捗管理、知見・教訓獲得、組織特性に応じたこれらの管理運営など）です。我田引水的になって恐縮ですが、こうした専門的能力を構成する能力要素を定義し、相応しい人材を獲得・育成するとともに、時代が求める運営スタイルを確立する必要があると思います。

4. 社会的知識インフラの活用促進

次世代医療 ICT の推進によって構築される社会的知識インフラが十分に活用されるような仕組みの考察が重要と思います。知識基盤の構造設計（再利用を促す知識の可視化・構造化）、アクセス性（然るべき専門家による知識基盤へのアクセス容易性）、個人情報保護（個人情報を保護しつつ、社会に有益な知見を利用できる制度設計）などが課題になると思います。

とくに、個人情報保護については、個人情報とその個人の社会生活における不当な扱いの素因とならないように配慮しつつ、社会知の獲得に資するような新たな価値観、制度の確立が必要と感じます。

以上